水郷都市の保全再生計画

—茨城県潮来市—

Y0012-4 笠原由季 指導教員 前田英寿

1. 研究の背景と目的

東日本大震災により、茨城県潮来市は液状化現象が発生した。また 潮来は、利根川の水運で発達した水郷都市である。しかし、鉄道や自 動車への交通転換により歴史的市街地において水辺との関わり方が 希薄している。

以上の事から、水辺を中心とした都市再生を液状化の対策を踏まえながら研究する。

2. 潮来市の概要

2-1 潮来市の現状

人口は約30,000人である。現在人口減と高齢化が進んでいる。位置は首都圏から約80km、北は行方市、南は神栖市、東は鹿嶋市、西は千葉県香取市に面している。北部は海抜30~40kmの行方団地、南部は低地となり、東部は北浦に面し、西部は霞ヶ浦と北利根川、南部は浪逆浦というように水辺に囲まれて豊かな水郷景観と水産物をもつ。総面積は、霞ヶ浦、北浦、鰐川、常陸利根川、外浪逆浦等の水面を含み、約68.35kmである。北部の台地は畑及び山林が占め、南部の低地は水田として稲作が盛んな地域である。主な道路は、東関東自動車道、国道51号、国道355号、主要地方道水戸神栖線がある。鉄道は国鉄鹿島線香取~鹿島16.7kmが開通されている。市街地は、国道51号沿道に形成されている。





図1 茨城県

図2 潮来市の位置

2-2 利根川流域における潮来

平安末期に関東地方では利根川下流域を中心に水上交通が発達した。そして、慶長5年徳川氏が幕府を開く際に、江戸を中心とした河川水運網や沿岸海運が整備された。潮来地方を含む霞ヶ浦、北浦及び下利根川流域でも、徳川幕府による利根川の東遷事業によって、江戸と結ぶ内陸水路が確立し、常陸国の年貢米や様々な物資が川船で江戸まで廻漕されるようになった。また、東北諸藩の年貢米や諸物資が内川廻り潮来経由で廻漕されるようになったため、潮来の前川沿いには仙台藩や津軽藩などの蔵屋敷などが設けられ、潮来は港町として、また行楽地として繁栄した。

3. 歴史的市街地の調査

明治時代から市街地が存在している所を地図で把握する事が出来た。その場所は図3の灰色で囲まれている所である。そこは前川であり、水運が発達した所である。現在に至るまでどういう場所だったのかについて調査した。調査する際に、現在の潮来地区(旧潮来町)を範囲にし、前川沿いと前川と並行する道沿い焦点を当てた。さらに、以下の5項目に分け、この市街地はどういう所なのか明確にする。

- ① インフラ:道路・水路・公園緑地
- ② 建物 (新旧・用涂)
- ③ 市民運動:祭り・商店街・住民運動
- ④ 空間資源:河川
- ⑤ その他:河岸・案内図・被害状況

Revitalization of Riverside Town

—Itako, Ibaraki Pref.— KASAHARA Yuki MAEDA Hidetoshi





図3 現在の街路図

図 4 明治時代に存在していた市街地

歴史的市街地を調査した結果、液状化被害のエリアに該当しており、水運の衰退によって水辺と建築物が関係し合っていない事が分かった。河岸や江間(水路)、河川などがほとんど埋め立てられ、水辺の風景が少なくなり、水郷潮来が変貌しつつある。しかし、歴史的建築物や石蔵などがまだ点々と残されている。また残された石田川と前川には昔ながらの風情を感じる事が出来る。以上の事から、現在の被害状況の対策を踏まえ、今残っている空間資源や建築物を活かす事が出来るような設計を提案する。

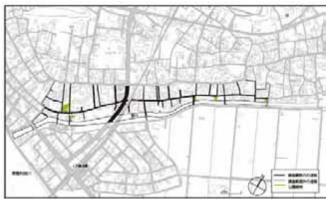


図 5 インフラ (道路)

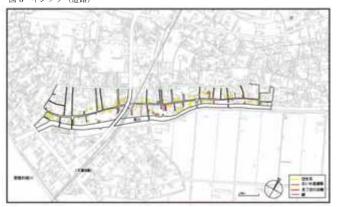


図 6 建物利用図

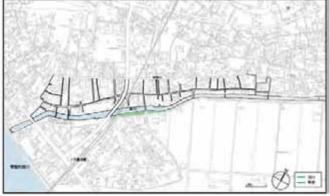


図7 河川図

所在地:茨城県潮来市

主な用途:店舗 ギャラリー 多目的施設 図書室 カフェ

キーワード:水辺・保全再生



図8 現在の潮来市潮来地区と昔の船入場の比較

4. 設計計画

設計する対象敷地は石田川付近にする。そこには、歴史的木造建築物、石蔵があり、昔は天王河岸が存在していた所だった。そこに観光地として、また住民の人たちにも水郷潮来を知ってもらえるように用途を野外博物館にした。



図 9 対象敷地

建てる際に課題が4つある。それらの対策を踏まえながら設計計画を行う。

- ① 河岸や水路、河川がほとんど見られないため、水郷潮来の景観を見出す事は難しい。
 - →石田川を保全再生し、川沿いを歩けるようにする。
- ② 天王河岸が存在していた所をイメージしにくい。
 - →天王河岸があった頃の地図を基に、水辺と小道を再生
- ③ 歴史的建築物と石蔵は空き家状態
 - →保全再生し、ギャラリーとして活用
- ④ 液状化対策
 - ・地盤改良
 - → **┤・**過去に水辺があった所を避ける
 - し・全部の建物を平屋にする



図 10 配置図兼 1 階平面図

Location: Itako City, Ibaraki Prefecture

Main Use: Retails, Galleries, Purpose Space, Library, Cafe

Keywords: Brink, Revitalization





写真 1 模型鳥瞰写真 写真 2 前川から撮った模型写真 写真 3 昔にあった小道 写真 4 石田川

5. 結語

本研究では、自分の故郷である水郷潮来を取り上げ、保全再生計画を考えた。石田川と一部の河岸を復元させ、また歴史的建築物を保全する事によって、昔の潮来のあり方を目で感じる事ができ、水辺との関わりを増やす事が出来るような提案をした。住民の人たちだけでなく、色々な人たちに水郷潮来を知ってもらい、希薄化していた水辺との関係が増えてくれる事を望む。



図 11 各用途の断面図